

BUSINESS REPORT

いつも となりに おいしいキヨクヨー



第91期
報告書

2013年4月1日

2014年3月31日



代表取締役社長 多田 久樹

企業理念

人間尊重を経営の基本に、
健康で心豊かな生活と食文化に貢献し
社会とともに成長することを目指します。

ご挨拶

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに第91期(2014年3月期)報告書をお届けいたします。

この一年、中期経営計画「パワーアップキョクヨー2015」の最終年度に向けた基礎固めとなる施策を実施いたしました。市販用新ブランド「シーマルシェ」の立ち上げ、業務用「だんどり上手」シリーズの発表、そしてグループ基幹工場建設の決定であります。また1月には家庭用冷凍食品の新商品を発表し、本格的な参入を果たしております。

一方、40年ぶりとなる「転換社債(CB)」を発行し、財務基盤の整備も進めております。

キョクヨーグループは引き続き「加工戦略」「グローバル戦略」「シナジー戦略」の3つを基本方針とし、目標達成に向け邁進してまいります。

株主の皆様におかれましては、これからもかわらぬ多大なるご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2014年6月

中期経営計画「パワーアップ キョクヨー 2015」の目標達成に向けて

当期(2014年3月期)の概況

当連結会計年度におけるわが国経済は、デフレ脱却に向けた金融緩和や経済対策効果、円安の進行により輸出関連企業を中心に企業収益や設備投資に持ち直しの傾向が見られ、堅調な個人消費と相俟って、緩やかな回復基調にあったと言えます。

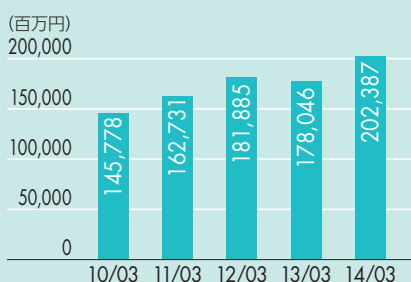
水産・食品業界におきましては、多少値段が高くとも高品質な商品の売上が伸びるなど、従来の低価格志向とは異なる動きも出てきましたが、円安の影響による原材料コストの上昇もあり、厳しい状況を脱し切れておりません。

このような状況のもと当社グループでは、中期経営計画「パワーアップキョクヨー2015」の2年目として、「キョクヨーグループの優位性を強化、拡充し、安心・安全で競争力のある商品の提供により、グループ企業価値の最大化を実現する」ことを基本目標に据えて取り組んでまいりました。

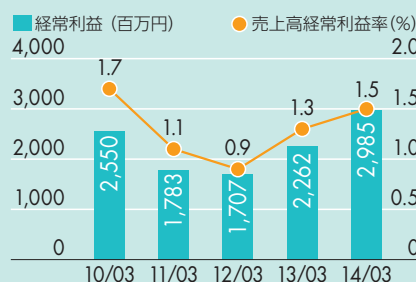
その結果、当社グループの売上高は2,023億87百万円(前期比13.7%増)、営業利益は29億15百万円(前期比25.4%増)、経常利益は29億85百万円(前期比32.0%増)、当期純利益は29億68百万円(前期比133.8%増)と

主な連結財務指標

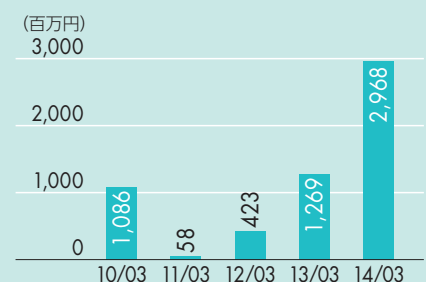
売上高



経常利益/売上高 経常利益率



当期純利益



なりました。

各セグメントの状況は以下のとおりです。

水産商事セグメントでは、年間を通じて堅調に推移した水産物市況を背景に、切身品、定塩さけ製品、伸ばしえびや生食用製品など、より加工度を増した利益率の高い製品の拡販に努めました。その結果、売上、利益ともに前期を大きく上回りました。

冷凍食品セグメントでは、寿司種を中心とした生食用商品の販売が順調に進みました。また「だんどり上手」シリーズとして他社との差別化を図った骨なし切り身商品は、アイテムを拡充し医療食や事業所給食向けに、また、かに風味かまぼこは量販店や外食産業向けに拡販を図りました。更に新ブランド「シーマルシェ」を発表するとともに、家庭用冷凍食品へも参入し、市販分野への販路拡大を進めました。加えて、宮城県塩釜市に当社グループ基幹工場の建設計画も進めております。その結果、この部門の売上は前期を上回りましたが、円安や原料高、海外工場における労務費をはじめとする生産コストの上昇などにより、利益は下回りました。

常温食品セグメントでは、さんまやさばなどの水産缶詰の他に、輸入缶詰や畜肉缶詰、海産珍味類などを量販店や大手コンビニルートへ拡販するとともに新規商材の開

発に努めました。その結果、売上は前期を上回ったものの、円安や原材料価格上昇による製品のコストアップに対して、販売価格への転嫁が不足したことにより、利益は下回りました。

物流サービスセグメントにおける冷蔵倉庫事業では、積極的に設備投資を行い、事業の効率化と営業力強化に努めました。冷蔵運搬船事業は、大幅にスリム化された船隊編成のもと年間契約を中心に配船するなど効率のよい運航に努めました。また本年3月に当社グループの経営効率の更なる向上を図るべく、連結子会社であった極洋海運株式会社を吸収合併しました。この結果、この部門の売上は前期を下回ったものの、利益は上回りました。

鯉・鮪セグメントにおける加工及び販売事業は、国内外からの原料調達ルートを活用した加工品の販路拡大と在庫水準の適正化を図りました。養殖事業は、「本鮪の極」の市場でのブランド力が定着し、順調に販売が進んでおりますが、天然種苗の確保については規制が強化されつつあり、完全養殖体制の早期実現に向けた孵化魚の育成に努めております。海外まき網事業は、魚価は安定的に推移したものの、近海操業の不漁やドック修繕に伴う稼働日数の減少により漁獲量は前年を下回りました。その結果、この部門の売上・利益ともに前期を下回りました。

次期(2015年3月期)の計画目標

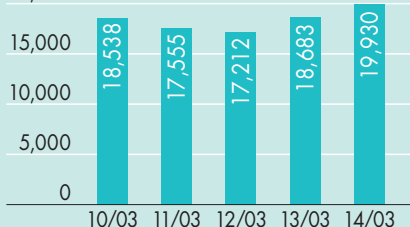
次期におけるわが国経済は、引き続き緩やかな回復が見込まれるものの、新興国経済の下振れリスクや消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動といった懸念材料も存在しており、また水産・食品業界におきましても、原材料価格の上昇に加え、国内販売環境の激化等、引き続き厳しい環境が想定されます。

このような状況のもと、当社グループは中期経営計画「パワーアップキョクヨー2015」の最終年度を迎え、目標達成に向けて事業運営を進めてまいります。

次期の連結業績は、売上高2,050億円、営業利益37億円、経常利益37億円、当期純利益23億円を見込んでおります。

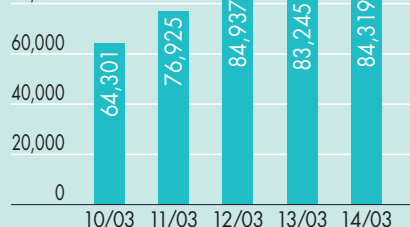
純資産

(百万円)
20,000

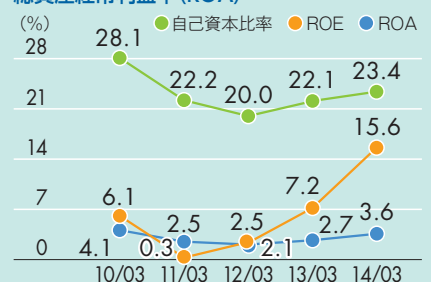


総資産

(百万円)
80,000



自己資本比率/自己資本利益率(ROE)/ 総資産経常利益率(ROA)



TOPICS 2013-2014

家庭用冷凍食品事業へ参入

手軽においしい魚が食べたいという潜在的需要と、高齢化社会や女性の社会進出の増加により高まっている便利な食品へのニーズに対応する商品として、魚素材の家庭用冷凍食品の発売を開始いたしました。



銀さけ塩焼き

2014年

3月

2月

1月

新工場建設を発表、12月 転換社債(CB)を発行

宮城県塩釜市に2015年度の稼働を目指して、業務用・家庭用の冷凍食品を製造する新工場の建設を発表し、その建設資金に充てることなどを目的として、12月には2018年満期の円貨建転換社債型新株予約権付社債を30億円発行いたしました。

12月

11月

10月

9月

8月

7月

6月

5月

4月

2013年

「だんどり上手」シリーズを発表

骨の除去など下処理が不要で、だんどりよく調理できる業務用の切身加工品シリーズとして販売を開始いたしました。今後、需要増加が見込まれる老人保健施設や病院向けのほか、スーパーの惣菜売り場などで好評いただいております。



市販ブランド「シーマルシェ」発表

市販商品への取り組み拡大を目指し、原料調達から加工、販売まで当社の総合力を生かしたブランドとして発表いたしました。世界中から海の恵みを「マルシェ=市場」のようにお届けしたいという想いが込められています。



「シーマルシェ」発表会

CSR

環境保全・社会貢献活動

MSC最高責任者と当社社長が会談

乱獲や違法な漁法、操業などによって、世界的に水産資源の確保は年々厳しくなっています。当社グループでは、将来にわたって海洋資源や地球環境に配慮した事業活動を継続するために2006年から国内外の子会社、工場を含めてMSC認証の取得拡大に努めてきました。また、2013年9月にはMSC最高責任者ルパート・ハウズ氏が来社し、当社の多田社長と今後の協力や積極的な取り組みについて前向きな話し合いがなされました。



ルパート・ハウズ氏と多田社長



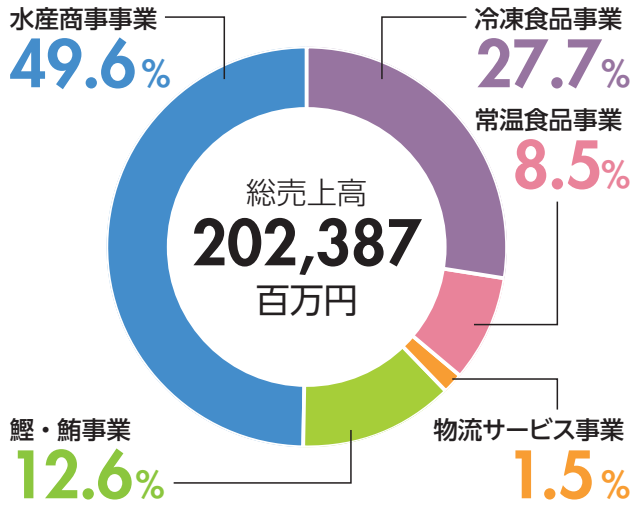
※MSC認証とは、持続可能で適切に管理された漁業やその漁業で獲られた水産物を扱う流通・加工業者を認証する制度です。

社会・環境報告書2013発行

2013年9月に「極洋グループ 社会・環境報告書 2013」と手軽にご覧いただけるダイジェスト版を発刊しました。2013年版では、魚食の普及推進に貢献する市販ブランドとして、2013年6月に発表した新ブランドの「シーマルシェ」を取り上げ、誕生の背景、商品のこだわりや工夫などを紹介しました。



セグメント別売上高構成比

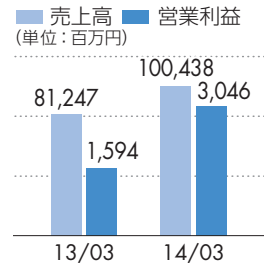


水産商事事業

- 売上高 100,438 百万円
- 営業利益 3,046 百万円

国内外の支社、営業所、駐在員事務所、関係会社の相互連携により、世界の海から質の高い水産物を安定的に調達するとともに、切身製品やかに、えびの剥き身製品などを提供しています。

また、日本国内で漁獲された魚介類の輸出や三国間貿易を積極的に行い、水産物の有効利用と資源循環型社会の実現に努めると同時に、魚食のグローバル化へも対応しています。



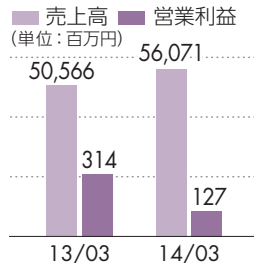
海老の恵料理例

冷凍食品事業

- 売上高 56,071 百万円
- 営業利益 127 百万円

寿司種を中心とした生食用商品を大手回転寿司チェーンなどへ販売しているほか、骨なし切身加工品「だんどり上手」シリーズや煮魚、漬け魚などの加熱用商品を老健食や宅配向けに販売しています。

また、水産フライ類やかに風味かまぼこをはじめ、畜肉製品や冷凍野菜などを外食ルートや量販店惣菜売場向けに販売しています。2014年春には、「シーマルシェ」ブランドとして家庭用冷凍食品の発売を開始しました。



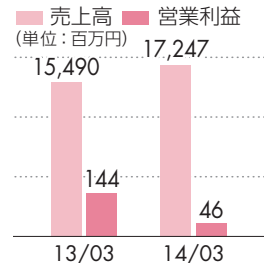
だんどり上手赤魚切身

常温食品事業

- 売上高 17,247 百万円
- 営業利益 46 百万円

鰹、さけ、かになどの魚介缶詰や海産珍味類のほか、グルコサミンなどの健康食品を取扱っています。

袋ごと電子レンジで温められるレンジ対応惣菜などをラインアップし、製品力の強化を図っています。

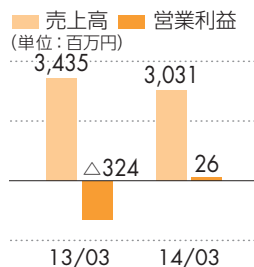


(左)レンジ対応惣菜「電子レンジ さばの味噌煮」/
(右)DHA・EPA

物流サービス事業

- 売上高 3,031 百万円
- 営業利益 26 百万円

冷蔵倉庫事業と冷蔵運搬船事業から成り、冷蔵倉庫事業は東京・大阪・福岡の3事業所体制で行っているほか、2014年8月から東京都に城南島事業所を開設し、京浜地区の庫腹拡大により事業拡大とサービス拡充を図ります。冷蔵運搬船事業は主にバナナや野菜類の輸送を行っています。2014年3月には、経営資源の集中による経営効率の向上を目的に、連結子会社であった極洋海運(株)を吸収合併しました。

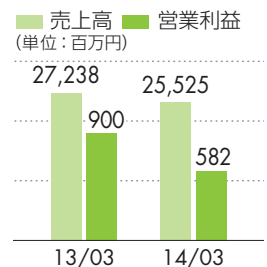


冷蔵運搬船

鰹・鮪事業

- 売上高 25,525 百万円
- 営業利益 582 百万円

鰹・鮪の漁撈・養殖から買付・加工・販売までを一貫して手掛けています。鰹については、当社グループ所有のまき網船「わかば丸」など独自の調達力があります。鮪については、限りある水産資源の保護と安定的供給のために、四国で養殖事業を展開し、オリジナルブランド「本鮪の極」はお客様から高い評価をいただいています。また、天然稚魚に頼らない完全養殖の実現に向けた取り組みを行っています。



本鮪の極

会社概要 2014年3月31日現在

社名 株式会社 極洋
英文社名 KYOKUYO CO., LTD.
本社所在地 〒107-0052 東京都港区赤坂三丁目3番5号

設立 1937年9月3日

資本金 56億6千4百万円

主要な事業内容 水産物の輸出入・国内買付販売、加工食品及び冷凍食品の製造販売

従業員数 2,111名(連結)
564名(個別)

連結対象会社数 21社

役員

代表取締役会長CEO	福井 清計	取締役	雲津 雅行
代表取締役社長	多田 久樹	取締役	井上 誠
専務取締役	今井 賢司	取締役	矢澤 久和
常務取締役	須藤 時廣	常勤監査役	細川 高稔
常務取締役	上居 隆	常勤監査役	中山 昌生
常務取締役	村上 吉男	監査役	高橋 義明
取締役	保坂 正美	監査役	上島 幹雄
取締役	松行 健一		

※2014年3月31日付にて代表取締役会長CEO福井清計氏は辞任いたしました。

株主優待のご案内

当社は、株主の皆様からの日頃のご支援に感謝するとともに、当社株式の魅力を高め、当社株式を保有していただける株主の増加を図ることを目的として株主優待制度を実施しています。

株主優待の内容

- **対象株主**
毎年基準日(3月31日)現在で当社株式1単元(1,000株)以上所有の株主様
- **優待の内容**
5,000円相当の当社製品贈呈
- **贈呈時期**
毎年7月予定

株主メモ

事業年度 4月1日～翌年3月31日
定時株主総会 毎年6月
定時株主総会基準日 3月31日
期末配当金基準日 3月31日
公告方法 日本経済新聞
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話：0120-232-711(フリーダイヤル)

(ご注意)

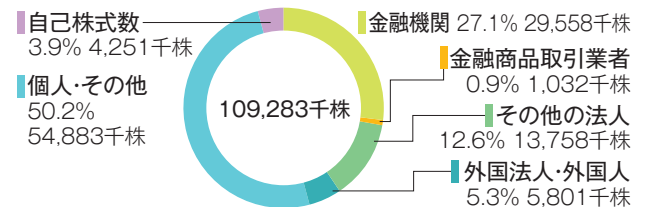
- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記載された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

株式の概況 2014年3月31日現在

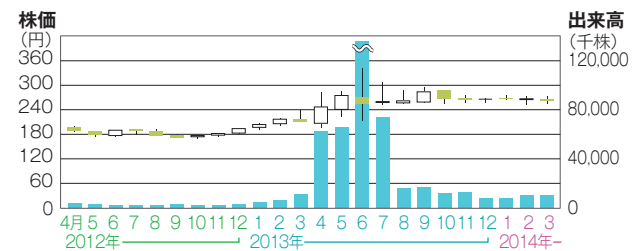
発行可能株式総数 437,000,000株
発行済株式の総数 109,282,837株
株主数 28,882名
大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	6,479	5.92
株式会社りそな銀行	5,234	4.78
三井住友海上火災保険株式会社	4,501	4.11
農林中央金庫	4,450	4.07
東洋製罐グループホールディングス株式会社	3,150	2.88
東京海上日動火災保険株式会社	2,245	2.05
カップ・クワイエットホールディングス株式会社	2,100	1.92
極洋秋津会	1,672	1.53
ザ チェース マンハッタン バンク エヌエイ	1,518	1.38
ロンドン エス エル オムニバス アカウ		
中央魚類株式会社	1,399	1.28

所有者別株式数分布状況



株価及び出来高の推移



WEBサイトのご案内

ニュース&トピックスのトップページから会社案内、IR情報、製品紹介のほか、キョクヨーグループの最新情報を掲載しています。また、皆様のご意見や質問をお受けする「お問い合わせ入力フォーム」も用意しておりますので、是非ご利用ください。



<http://www.kyokuyo.co.jp>

キョクヨー

検索